

リケジョが飛び込んだイロトリドリノセカイ

無限大
～生み出される色と模様は∞～



アンドウ株式会社 京都製造部

阪中 教恵 さん 31歳

1989年大阪府生まれ。立命館大学大学院卒業後、理系研究職を経て2017年にアンドウ(株)へ入社。研究職時代は「分子」レベルの研究を行っていたが、目に見える商品でかつ伝統的なものづくりをしてみたいと思い入社。人生の大先輩方に囲まれ、数値化できない「感覚」や「勘」で行われる染色に携わっている。趣味は中学生から続けている音楽演奏。打楽器全般を担当している。また仕事帰りに美術鑑賞をするなど、本物を見る目を養うための自己研鑽に励んでいる。



京鹿の子絞りとは？

糸で絞る「絞り染め」タイプ、折って板で挟む「板締め」などがあります。[伝産協会HP](#)でも詳しく紹介しているのでご覧ください。

伝産協会内
京鹿の子紹介ページ



絞りの染めの仕事に携わっています

どんな仕事をしていますか？

帯揚げの場合、糸で絞られた状態の白い生地が入荷され、それを指定の色に染色します。

染める時は「浸染(しんぜん)」といって、染料が入った液体の中に浸けますが、そのままにしておくと色ムラになってしまうので 均一に色がつくように生地を手でしっかり動かしています。全て手作業で行っています。染料の液体は80℃の高温になることもあり、その際は手袋の中に水を入れてから着用して作業します。

※帯揚げとは？：帯の上辺を飾る布で、ちらりと見えることでアクセントになります。



帯揚げの染色作業の様子

勘や感覚がポイント

理系研究職からの転職でギャップはありましたか？

色見本との「色合わせ」は難しいポイントの一つ。全ての作業を数値化すれば作業効率も上がり、同じ色合いで染めることも可能だと思います。しかし、工業製品とは違い1点1点風合いが異なるのが伝統産業の魅力の一つと考えます。先輩方のように「勘」や「感覚」を養うことが重要と感じています。

家庭でも染色体験ができるキットを開発しました

絞りを身近に感じてもらうため取り組んだ事は？

2019年の冬に染色体験キットを開発しました。気軽に体験できるように染料や生地など、必要なものが一式になっています。染めたくない部分(白くしたい箇所)を糸でくったり、板で挟んだりした生地を染めます。学校でやるような草木染めの延長なイメージです。京鹿の子絞りを身近に感じてもらう、手にとってもらう機会が増えたらいいなと思います。

※背景は染色体験キットで染めた柄です



板締め染め体験キット【itocco】

伝産男子。伝産女子。 Vol.3

～京鹿の子絞り～



自分の染めた生地が製品になり形になったとき

仕事のやりがいやうれしかったことは？

自分が染めた生地が縫製を経て最終商品として形になったのを見ることがうれしいです。いちばん初めに染めた生地はつまみ細工として製品になりました。またもっともっと身近に感じてもらうために和装関連以外の作品作りも行っています。



阪中さん愛用の絞りバック



(上)綿のレース生地の絞り染め
(左)京鹿の子絞りのプリント柄融合生地



つまみ細工



同じ柄がなくそれぞれに個性がある

京鹿の子絞りの魅力って？

手仕事独特のあたたかみがあり、完全に同じ物ができないところです。また生地によって色の付き方が違う点も魅力です。板締め絞りも生地の折り方や染料を浸ける場所を変える事で様々な柄が出せます。少しの変化で柄が変わったりする。そういった不確かさが絞り染めの魅力的な点です。新しい事に取り組んだ時は、絞った糸をほどこいてみないとどんな柄がでるかかわからないので、ワクワクします！



身近なアイテムへの展開にチャレンジ

伝統産業の魅力はどこなところですか？

奥が深いセカイ。やればやるほどうまくいかないこともあるし、色々発見もあるので、やりがいがあります。今は着物関連の商品が多いですが、もっと身近な商品アイテムとして使えないかなと思うので、まだまだ展開の余地があるんじゃないかと思っています。新しい事(着物以外のアイテム開発)に挑戦できるのは面白いところです。



染色後糸をほどこと京鹿の子独特の凹凸が残ります。

アンドウ株式会社

【住所】 京都府京都市下京区柳馬場通五条上る柏屋町327番地

【TEL】 075-341-0361【FAX】 075-341-9402

【代表取締役】 安藤 一郎

【創業】 1923年【従業員数】 70名【会社ホームページ】<https://ando-kyo.co.jp/>

【会社概要】

1923年(大正12年)にアンドウ株式会社の前身である安藤商店が京都に誕生しました。「珠玉のごとき品をうみ出すを命とす」を社是として、絞り染め、和装小物を中心とした商品の製造卸業を90年以上営んでいます。以前から帯揚げの総絞りなど着物用の小物を製造していましたが、浴衣関連商品のほか、社員のアイデアで和装を超えた和雑貨の商品が次々に生み出されています。

